

世界市民明石塾 21 世紀青年憲章 (21st Century Youth Charter)

1. 前文

我々関西学院世界市民明石塾に参加した 20 人の高校生は、2017 年 8 月 8 日から 11 月 25 日まで合計 4 回にわたり明石康塾長ならびに関西学院大学の教員の指導の下に①「岐路に立つ世界情勢、私たちはどう立ち向かうか」②「人類は 21 世紀を迎えられるか」③「国連・多国間協力の危機!？」④「急激な世界情勢の変化が未来に及ぼす影響とは？」等について勉強を重ねてきた。そのなかで、高校生が何を考え、行動すべきなのか、また、来るべき次の変動に備えて、何を理念として持っておくべきなのかを検討してきた。

この憲章は、貧困、難民、戦争、環境など様々な問題に直面している現代において、全人類が人道的かつ公正、公平で全ての生命が尊重される世界を 21 世紀に創造するためのものである。その上で、22 世紀への期待と希望である本憲章を全世界の全人類へのメッセージとし、ここに宣言する。

2. 日本と国際社会の現状認識

国連の不完全性が示すように、現在全世界規模での効果的な多国間連携が図れていない。政治的、宗教的、軍事的、経済的な理由から生まれる国家間の軋轢が、難民、紛争、核兵器問題、教育、貧困、環境破壊などのさまざまな問題に対する国際協力を踏まえた問題解決への道を閉ざしている。

先進国と途上国間での格差だけでなく、それぞれの国内でも格差が顕著となっている。特に途上国の貧困問題は環境破壊にもつながり負の連鎖を生み出している。その改善は従来から必要とされているが現状はあまり変わっていない。そのことから貧困に苦しむ人々にとって、本当に必要な支援がなされていないことが伺える。

環境問題は年々深刻化している。このままだと 2100 年には地球温暖化によって、海面上昇、干ばつ、異常気象などの問題が引き起こされると予測されている。化石燃料は近い将来、枯渇してしまうことが確実視されている。

異文化理解の欠如から生じる難民に対する偏見が難民問題の解決を困難にしている。自国の利益のみを追求した非合理的な軍事政策による核兵器問題も深刻である。

3. 問題点の分析

貧困はあらゆる問題に飛び火する。貧困は貧困を生み、また、紛争、難民問題、病気、暴動、過激思想の台頭を生む。

貧困に陥る主要な原因として、特に発展途上国においては初等教育の欠如、また先進国においてはグローバル化による貧富の格差の拡大があげられる。一般に途上国においては、家族計画について無知であり、労働力になる子供の数が増え過ぎたために、彼らを養う経済力が不足している事態が発生している。

地球環境を取り巻く状況において、根本的な問題は、経済発展優先で環境に対する意識が低い国が多いことであり、全人類一人ひとりの環境問題への意識と取り組みが不十分である。

南北問題をはじめとして、各国間の格差が存在している。発展途上国においては、デジタル・デバイドなど情報格差があることによって、経済的発展を阻害している。

これらの諸問題に対する国連諸機関による効果的な対策がなされていないことにより、問題解決が依然としてなされていない。

4. 今後の日本と国際社会への提言

他者に対する理解を深め、民族・宗教・性的嗜好等の違いによる差別を無くす。世界の人々は表面的な差異による違いを見出すのではなく根本的な相似点に目を向け助け合いの精神を基調とすべきである。

多様性の心を持ち地球に対する責任とすべての生命が幸福に生きることができるように助け合いの精神を持つべきである。

環境に良くないからといって、科学の発展や経済活動にブレーキをかけることは現実的ではないため、環境対策と経済発展の両立を図ることが重要である。先進国は途上国の経済発展に協力しつつ、全地球規模で積極的に環境への対策を図るべきである。

我々は現在の諸問題を抱えた国際連合に絶望するのではなく、全人類がこの完璧ではない国際連合を許容し全面的に協力することでいかなる問題にも対応できる強靱かつ柔軟な組織へと昇華させる。そしてその生まれ変わった国際連合の下に全人類が人間らしい生き方を選択し享受できる世界を創造する。この憲章が新しい世界の礎となることを願う。